

# みんなの声を市政に一般質問

**問** 市内の学童保育の現状や入所できない児童が、どのくらいいるのかを伺う。

**答** 保健福祉部長 市内の学童クラブは10カ所あり、定員は480名です。現在入所できない児童数は市内で19名おり、岩瀬で6名、羽黒で13名です。入所できない理由としては、平成27年度から対象児童を小学3年生から6年生に引き上げたこと、また学校に学童クラブの空き教室がないことにより、新たな開設ができないことによるものと思われま。



萩原剛志 議員

## 学童保育について

**問** ひとり親家庭など、親の就労状況などを考慮し、優先的に入所を許可することはできないか。

**答** 保健福祉部長 桜川市学童クラブへの入所要件は、市内の小学校に就学している児童で、当該児童の保護者のいずれもが昼間就労のため保育ができない場合や、昼間臨時的に保育することができなくなったときなどが該当し、かつ同居の親族、その他の者からも保育をすることができないと認められた児童が該当になります。

入所については、下校してくる時間や放課後児童クラブの本来の対象児童の学年などがかんがみ、低学年優先の入所としています。

- その他の質問**
- ・フイリピン共和国・パコル市との今後の事業展開について
  - ・JFTによるパコル市からの英語教員の導入について
  - ・介護人材をはじめとする技能実習生・留学生の受け入れの支援について
  - ・特産物の輸出入について

# みんなの声を市政に一般質問

**問** 市発足時の人口は4万8400人だったが、市発足後一貫して人口が減っている。来月4月には4万人を切るのではないかと。特に子どもは減少が激しく、5歳児は295人、0歳児は198人で、ついに200人を切ってしまった。現在の給食数は約3400食だが、今の0歳児が小学1年生になるときは、給食数はいくつになるか。

**答** 総合戦略部長 5000食減って、2900食になります。



菊池伸浩 議員

## 人口減少の現状とその対策を

**問** 真壁高校存続のための支援策は今、県は少子化に伴い、高校の再編統合を進めている。銚田市では銚田農高がなくなり、来年は常陸太田市で佐竹高校がなくなる。過日、地元県議と話をして、真壁高、明野高、筑波高の存続が話題になったが、どこも募集定員を割っており、真壁高を残すための支援策を持たなければならぬ。

特に高校がなくなると、人口減少に大きな拍車をかける。真壁高の在校生の30%が桜川市、25%が筑西市、27%が栃木県在住者残り15%が八郷方面である。このままでは真壁高の存続が難しくなっている。



真壁高校校舎

**答** 市長 農学科や環境地科など専門性の高い特徴的なコースをアピールしている効果が出ていていると思われる。市では「ヤマザクラGO(号)」で通学する生徒への支援として、高校前に始業時間に合わせたダイヤを組んで対応しています。真壁高と官学連携を結んでいます。ヤマザクラの保存でも協力をいただいています。

も、真壁高校存続に支援策をとる必要があると思う。

## 桜川市の人口流出の傾向と、今後の課題

**問** 人口移動の実態、主な転出先はどこか。

**答** 市長公室長 この3年間の推移を見ますと、県内外への転出はほぼ横ばい、うち6割が県内移動です。特徴として、転出入ともに近隣移動が多く、平成28年度の調査



林悦子 議員

では、転入者・転出者ともに筑西市が30%、つくば市が15%、笠間市と水戸市がそれぞれ10%、4市で移動の6割を占めています。転入よりも転出の方が300人以上多い現状です。市が平成29年度に行った調査によると、

- ①働く場所がないこと。
  - ②医療体制に不安があること。
  - ③公園など子育ての憩いの場がない。
  - ④買い物に不便であること。
  - ⑤交通の便が悪いこと。
- などの意見が若い世代から多く寄せられました。

進学・就職、婚姻や育児など、人生の転機に利便性を求めて居住地を決めている実態が浮き彫りになっています。



## 患者カルテの取り扱いについて

**問** 10月1日開院に向けて、茨城県西部メディカルセンターと桜川地域医療センターに受診される患者のカルテの取り扱い等、どのような連携を図っていくのか伺う。

**答** 総合戦略部長 カルテの取り扱いについては、開院後、お互いに照会、それから逆紹介という事態が予想されることから、両病院



市村香 議員

とも地域医療連携のために整備した「いばらき安心ネット」に接続することとしています。この安心ネットは患者さんの同意があれば双方の医療情報が安全に共有できる利便性があり、さらに両病院で同じような検査も少なくなり患者さんの負担軽減にもつながると思います。筑波大学付属病院や筑波メディカルセンター高次医療機関も加入しており、連携も図れます。

**問** 病院へ通院しやすい公共交通網の整備について

**答** 市長公室長 新設ルートとして、桜川市バス・ヤマザクラGO(号)を開院に合わせて運行する予定で、地域医療センターへの通院対応はもろろのこと、岩瀬市

## 小中学校の学習体制の強化について

**問** 県西初の小中一貫校「桃山学園」の立ち上がりはどうか。課題は何か。

**答** 教育長 どの学校もスタート時に費やされる時間が多く、教育の目的やプランをしっかりと示して、加配措置や教員の増員をしていきたいと考えています。

**答** 市長 住みやすさは地域医療センターができ、買い物もショッピングセンターが来年には開店の運びになっています。学校も今後さらに方向を決め、削るところは削って、何とか給食費の軽減に踏み込んでいきたいと思っています。

